



平成 30 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ゼネラル・オイスター
代 表 者 名 代表取締役社長 吉田 秀則
代 表 取 締 役 C E O 丹野 裕介
(コード番号：3224 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 安部 浩司
(TEL. 03-6667-6606)

特別損失の計上及び平成 30 年 3 月期連結実績と前期実績との差異に関する

お知らせ

当社は、以下のとおり、特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 30 年 3 月期の連結業績に関しまして、前期実績との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

①店舗閉鎖損失 46 百万円

平成 29 年 3 月期において相当数の不採算店舗整理を行いました。採算性のさらなる向上を目指し、不採算店舗の一層の整理を行います。

平成 30 年 3 月 31 日にラ・テラス池袋西武屋上店を閉店したため、その閉店費用に加えて、平成 31 年 3 月期に閉店を決定している 2 店舗の閉鎖に伴って見込まれる費用 46 百万円を店舗閉鎖損失として計上いたしました。

②減損損失 52 百万円

不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務として計上していた資産除去債務について、近年撤退した店舗及び事業拠点における撤退費用等の新たな情報の入手に伴い、撤退時の原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。当該見積りの変更及び回収可能性の検討を行った結果、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、一部の店舗及び事業拠点の固定資産について減損処理を実施し、52 百万円の減損損失を計上いたしました。

③会員権評価損 15 百万円

従業員の福利厚生目的のために保有しているリゾート会員権について、評価額が取得価格に比して 50%を超えて下落したため、簿価と評価額との差額 15 百万円を会員権評価損として計上いたしました。

2. 平成 30 年 3 月期通期連結実績値と前期実績値との差異

(当期：平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主 に帰属する 当期純利益 (百万円)	1 株当たり 当期純利益
前期実績値 (A)	3,868	△461	△475	△744	△480 円 04 銭
当期実績値 (B)	3,854	△160	△173	△293	△174 円 55 銭
増減額 (B)－(A)	△13	301	301	446	－
増減率 (%)	△0.4%	－	－	－	－

(差異が生じた理由)

前期に不採算店舗の閉店（5 店舗及び受託解除 1 店舗）を行い、当期は店舗数が減少したものの、既存店売上が前年同期比 3.7%回復したことから、売上は前期と当期は同水準を維持できました。

営業利益及び経常利益は、主に不採算店舗の閉店による固定費削減効果、前期に半数近くの店舗に固定資産の減損会計を適用し減価償却負担が軽減されたこと、及び経費削減努力が奏功したことにより販売費及び一般管理費が減少し、損失幅が縮小しております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産の減損適用額が縮小したこと、閉店店舗数が減少したこと、及び当期の店舗閉鎖損失は前期に減損実施済みの店舗に対してのものであり費用計上額が減少したこと等から、損失額が縮小しております。

以上